

第4回 港湾ロジスティクスワーキンググループ 議事要旨

日 時：令和8年5月20日（水） 13：00～14：15

場 所：中央合同庁舎3号館4階幹部会議室

1. 港湾ロジスティクスワーキンググループのとりまとめ案について意見交換を行った。

2. 意見交換では、委員から、以下のような意見があった。

【大水深・大規模コンテナターミナルの整備について】

- ・大規模なターミナルの整備と荷役機械の自動化・遠隔操作化は車の両輪であり、民間投資を促進する意味でも、必要なインフラの整備をしっかりと進めることが重要。

【荷役機械の自動化・遠隔操作化等について】

- ・自動化・遠隔操作化等荷役機械の導入促進について、これまで日本において、遠隔操作RTG、遠隔操作ガントリークレーンの導入が中心となっていたが、今後、コンテナターミナル全体の自動化等を考えるに当たっては、自動搬送台車や自動トレーラー等、ターミナル内のいわゆる水平搬送の自動化等の推進も重要になる。
- ・自動化・遠隔操作化荷役機械を安全かつ効率的に活用していくに当たっては、例えば無人の機械と有人の機械の協調作業が必要になる等のオペレーションの特徴も踏まえて、安全に運用するためのガイドラインや効率的にオペレーションを行っていくための方法を考えていく必要がある。
- ・最近、フィジカルAIという言葉がよく聞かれるようになってきた。港湾ロジスティクスにおいても、例えば荷役機械のデータの収集や制御、港湾施設の維持管理の効率化等、様々な分野に今後活用が期待されるのではないかと。
- ・荷役機械の生産機能を強化するに当たって、特定事業者だけではなく、これから参入する事業者も含めて検討していただきたい。

【ＩＴ化、サイバーセキュリティについて】

- ・ ＩＴ化が進んでいくと、可用性を確保していくために電力と通信が重要になってくる。サイバーポートやNACCＳとの通信が途絶してしまうと、大きな影響や混乱が起こり得る。
- ・ ＩＴの利用が拡大すると、思わぬ関係性が広がっていく。その対策のためには、多くの関係者の知見を集めていかなければいけない。ＩＴによる革新はスピーディに進んでいくため、そのスピードに負けないように対策を進めていただきたい。
- ・ 「ＡＩターミナル２．０」という書き方は、ＡＩを前向きに利用しようということだが、最近高性能ＡＩの悪用リスクが話題となっている。港湾分野に限ったことではないが、サイバーセキュリティに対しては重大な事項として国も積極的に取り組んでいただきたい。
- ・ サイバーセキュリティについて、１００％安全はないということを前提として全ての計画を立てていく。電源も、通信も、必ず二重化しておくことが大切。安全設計や自動化も、攻撃を受ける前提で、受けた後どうするかということを徹底的に考えていかないといけない。

【人材育成について】

- ・ 下支えする人材育成について、厚生労働省の港湾カレッジがあるが、求人数が何百人のところにはほんの数十人しか輩出できていない。国の９９％の物流が港なので、必ずそこにビジネスはある。年齢層を問わずしっかりと宣伝すれば、様々な方がやってくるのではないか。
- ・ 港湾運送事業における人材育成について、求められるスキルが変わっていくのは当然だが、機械が高度化すれば、人はそこまで高度な技術がなくても済むのではないか。より高度な技術が必要というよりは、求められるスキルの内容が違ってくるところを整理したほうがよい。
- ・ どの分野でもそうだと思うが、新しい時代に対応できる人という意味で、高度な知識を習得するための教育訓練が求められる。

【施策の進め方等について】

- ・ 港湾ロジスティクスについて、これほど施策が必要なのかというところで驚いていると同時に、逆にこれだけのことをやっていけば、ある程度、明るい未来が見えてくるのではないかと期待している。
- ・ とりまとめを出すだけで終わりではなくて、定期的に見直しをして軌道修正するなり、新たな手を打つなりしていかないと、ここだけの議論で終わってしまう可能性が大きいので、KPI、KGIを意識して、経過を追っていただきたい。
- ・ 選ばれる港というキーワードは今の日本にとってはとても重要な概念である。特に、他国に過度に依存しないことの重要性を考えると、やはり日本の港が選ばれる港になるということが重要であって、そのために国が果たすべき役割、国の指導力が今後もますます重要になっていくのではないか。
- ・ 単に港そのものを効率化するというだけでなく、内航と外航の海運の連結を確保すること、それから陸上輸送や倉庫にも配慮した形でロジスティクスということを考えるべきであり、そういった視点からの効率化が必要。
- ・ 我が国は災害の多い国であり、また、地球全体の気候変動の問題もあるため、社会経済を支えていく上で港湾がいかに重要かということを改めて考えなければいけない。
- ・ 港湾を取り巻く環境をより良いものにし、選ばれる港にしていくためには、様々な分野からの協力が必要。関係省庁間、民間と官、民間事業者間でも協力が必要であり、具体的な取組が今後ますます重要になっていく。
- ・ 国際情勢の変化の速さや技術革新の速さを考えると、スピード感を持って対応しなければならない。一度文書にまとめたとしても、いつか根本的に見直す必要があるときも来ると思う。そういう意味で、スピード感を持った対応と柔軟な対応が求められる。